

嗚呼！大津寄先生

会長 青井美智子

大津寄章三先生は7月17日（火）午前2時にご逝去されました。62歳でいらっしやいました。ご葬儀は20日（金）午後2時から松山内浜の光輪閣で営まれました。

斎場にはいろいろな制服の高校生が多く見られました。会場入り口には、お孫さんたちとのたくさんのおスナップ写真、先生の還暦やお誕生日の記念写真が飾られ、大津寄先生の多方面にわたるご活躍を支えられたご家庭が円満でお幸せそのものであったことが伺われました。祭壇には育鵬社の歴史教科書も供えられていました。この教科書は先生のお棺にも入れられました。

大学時代のご友人からと思われる弔電が紹介されました。「国を想い、人に優しく自らに厳しく、論理的でまっすぐなお人柄が他を魅了しました」と故人を讃えておられました。ほんとうに老若男女が大津寄先生の大ファンでありました。その方の和歌を引用させていただきます。

新しき
御代を知らずに
征く君の誠心（まことごころ）は
ここにこのまま

先生が亡くなられた日の夕方、訪れた書店でたまたま神谷美恵子氏の本を買い、たまたま後ろから読みました。

「65歳という若さで亡くなられたことを考えると、あまりに早くに迎えた人生の終焉というよりほかありません。しかしご本人にとっては十分にその生を生き抜いて充実した人生だったと考えておられたのではないかと思います」（日野原重明先生）

私にはこの一文は大津寄先生からのメッセージに思えました。

嘆かず、大津寄先生が目指しておられた日本を、私も微力ながら目指して参ります。

会員のみなさま、これからもよろしくお願い申し上げます。

親学講座のお知らせ

親が変われば子供も変わる

日時：平成30年9月2日（日）13：00～15：30
会場：東温市 川内公民館 3階 第3学習室
講師：杉本哲也先生（一財）親学推進協会講師
テーマ：海外の子育て事情から考える父性と母性
受講料：2000円
後援：東温市教育委員会

日が迫って参りました。今回は5回目になります。今までで最多の参加者を目標にしております。（いままでの最高は23名です）。ご都合のつく方は是非お越し下さいませ。

杉本先生は松下政経塾の卒塾生。山田宏議員が次世代の党のおり政策秘書をされておりました。現在、社団法人実践の人の家理事・NPO 法人大阪府木村式自然栽培実行委員会副理事長・門真子ども炊き出しゼネラルマネジャー・道頓堀を楽しく掃除する会（道楽）発起人などされています。

以下に先生の最新のご活動に関するブログを掲載させていただきます。

～フィリピンにボランティア・ツアー～

【8月6日】

寺子屋や掃除のボランティア仲間たちと一緒に子どもを連れて、フィリピンのダバオにきた。今日は一日移動だけで明日から本格的に活動するのであるが、移動といえど単なる旅行ではなく、寺子屋的に集団行動を身に付けることを意識している。

たとえば飛行機で使った枕やヘッドフォン、毛布などはきちんと畳んで元に戻しておく、航空チケットを確認してもらったらきちんと「ありがとう」を言う、入国審査などで並んでいる時は喋って待っているのではなく前の人はどうやっているのかを見て自分の番を想定して時間をかけないようにするなど、集団の中で人に迷惑をかけず率先して集団を良い方向に導く人間になるための方法論をたくさん実践させている。

一番年長は小6から最年少は3歳まで、教えればそれが本人の基準になる。初めての海外でこういう経験をしておくと、集団行動の中では一目置かれる人間になれるはずである。

【8月7日】

今日はフィリピンのダバオで障害児のいる児童養護施設を訪問しました。こちらの施設ではマザーテレサの教えに従って、洗濯はすべて手洗いです。洗濯も愛を伝える一つの行為だということなのです。

子どもも大人もスタッフの方と一緒に洗濯し、その大変さを体験しました。洗濯機

が当たり前前の日本社会の子どもたちは洗濯板で手洗いをするということも初めてです。心をこめて洗濯をすれば愛は伝わるということを感じることができたようです。

【8月10日】

フィリピン・ダバオで現地の日本語学校の開校式典にお招きいただき、テープカットからパーティーにまで参加してきました。蠟燭に火を付けて、建物の隅々まで歩いたり、神父さんが聖水を振りまく様子は日本の神事と共通点を見出したようです。フィリピン人が国歌を歌う時には胸に手を当てて歌っているところを見て、子供達は感じるどころがたくさんあったようです。

お招きいただいたお礼に、日本式の折り紙でいろいろと作品を作ってささやかながらお返しをしました。ただ頂くだけでなく、できることで返すということも子供達には良い経験になりました。

【8月11日】

フィリピン・ダバオの最終日はショッピングモール内にあるスーパーマーケットに行き、子供達に日本でも見る製品を片っ端から探ししてもらいました。中には日本では見るけど日本企業が作った製品ではないものもあるので、どこの国の企業なのかを調べる宿題を出しました。

逆に生鮮品コーナーでは日本では見られない果物や野菜を探してもらいました。ドリアンが日本で見つからないことはわかったようです。

スーパーでの買い物一つとっても、1ペソ=2円でいくらくらいなのかの計算をさせたりすると算数の時間にもなりますし、日本という国の影響力や気候の違い、嗜好の違い、文化の違いなどを伝えれば社会の時間になります。

単なる旅行ではなく、学びを盛り込んだ寺子屋的旅行は子供達には大きな経験になりました。

【8月12日】

フィリピンより帰国しました。もちろん学びの時間ばかりでなくて、ホテルに付いているプールで泳いだり、船に乗って隣の島に渡って、きれいな海で泳いだり、街中を走るジップに乗ったりと、フィリピンならではの遊びの体験もしてきました。

子供達は兄妹のようになり、大人もどの子に対しても我が子のように接するようになりました。大人も子供も日本にいただけでは得られない学びができて、楽しむことのできる寺子屋的海外旅行は毎年続けていきたいと思えます。

【8月14日】

先日のフィリピン旅行のこぼれ話になりますが、ホテルの朝食はバイキングです。各自好きな時間に食べに行けば済む話なのですが、必ず時間を合わせて全員で食べるようにしていました。

こういう話をすると「各家庭の生活習慣は違うのだから、好きなように食べたほうがいいんじゃないですか？」「旅行の時くらい好きな時に食べればいいんじゃないですか？」と言う人もいます。しかし教育の根本的な基礎は習慣をつけさせることです。旅行の目的が休養にあるのであれば、それもいいと思いますが、教育を目的にした旅行では生活習慣を整えるということも大事なことです。

海外では席取りに置いておいた荷物を盗まれるということもあり得ますので、荷物番を全体で一人置いておくことによって効率よく朝食をとることもできます。食べた後は全員で片付けをするということも全員で共有できます。

個人の価値観ばかりが重視される日本社会だからこそ、こういった集団生活の経験は大事です。東日本大震災以降「絆」という言葉が乱用されるようになりましたが、「絆」は生活をすべて共にすることで生まれるものではないかと感じた旅行でした。

憲法改正に向けての講演会

美しい日本の心を語る会～今、なぜ憲法改正が必要なのか

講師：加戸守行 前愛媛県知事

日時：平成30年9月9日（日）午後1時30分～4時

会場：土居文化会館ユーホール（四国中央市土居町入野939番地 0896-28-6353）

入場無料

主催：加戸守行氏美しい日本の心を語る会実行委員会（実行委員長 井原巧）

後援：美しい日本の憲法をつくる愛媛県民の会（実行委員長 加戸守行）

憲法に自衛隊を明記する意義一元自衛官の立場から

講師：織田邦男氏 元空将

日時：平成30年9月22日（土） 午後2時開会 （4時閉会予定）

会場：椿神社会館 3階 参集殿

入場無料

主催：愛媛県憲法改正国民投票連絡会議設立大会実行委員会

（共同代表：山本順三・加戸守行）

杉田水脈議員を応援します！

『新潮45』に掲載された論文が左翼メディアなどから砲火をあびておられる杉田水脈（みお）議員。大阪の南木クラブMLで南木先生がご紹介になったアメリカのMs. Tomoko Kuroda の投稿を転載させていただきます。

8月20日 13:06

全ての文章を読もうともせずまた文章を正しく読み解くこともせず、発言の重箱の隅

をつついて、言ってもいない事を言ったと妄想を膨らまして「差別主義者」のレッテルを貼り、「差別をなくそう」と逆差別している人達があります。おかしいことです。気に入らない人間を社会的に抹殺すべく、ここぞとばかりに悪意を持って発信している人・組織・メディアがなんと多い事か。

そういえば慰安婦問題もおんなじ構造ですネ。自分と見解の違う人たちの事を ネットウヨだ歴史修正主義者だ **Comfort Women Denier** だのとレッテルを貼って、日本政府は慰安婦を否定しているとか日本は慰安婦に謝罪や賠償もしていないとか事実と違う主張をしたり、妄想を膨らませて慰安婦を性奴隷に格上げ(?)したり、政争の具にする為には可哀そうなハルモニを見世物にすることも厭わずに世界中を連れまわすとか、人権を謳っているのにやっている事のおかしな人・組織・メディアが多く、そういった勢力の暗躍で、日本の評判は世界の一部では劣勢を強いられています。

でも、マス・ヒステリーを煽動して、民族、性別、LGBT、障害、その他あらゆるマイノリティーを政治闘争の道具に利用している者の正体が誰かという事を、もう多くの人は気づいていると思います。そういった輩にはいずれ天誅がくだるに決まっています。

それよりも、こういったマス・ヒステリーの論調によって、日本の国益に叶った活動をしてくださる、勇気ある、稀有な政治家を失ってしまわないか、そっちのほうに心配です。

杉田水脈衆議院議員。

杉田先生は、本当に日本の為に頑張ってくださいている、日本に必要な政治家です。わたしはしばらくフェイスブックをしていなかったのですが、あまりにも世論によるリンチ/吊し上げが酷くて見ていられないので、わたし自身が杉田水脈先生とお会いした時の話を書いておこうと思います。

在野にいらっしゃる時も、日本のためにと手弁当で世界を駆け回ってくださっていた杉田先生は、ここ、ニューヨーク&ニュージャージーにも何度もお越しになりました。

例えば、2016年3月には、ニューヨーク国連で行われた《女性の地位向上委員会》の平行イベントでスピーチをされました。内容は、杉田先生ご自身が実際にベトナムを訪問して行った取材に基づいて、韓国がベトナム戦争で犯した戦争犯罪とライダイハンの問題と、ベトナムの被害女性の人権について言及をされました。【慰安婦は性奴隷ではない】というタイトルで参加をした NGO 団体の枠だったので、当然会場には慰安婦は性奴隷だったと主張する聴衆や日本を辱めたいだけの活動家らが大量詰めかけてきていて、場内は立ち見も出るくらいにいっぱいになっていました。そんな中で杉田先生は、いままで誰も触れなかった驚天動地の話をされたものですから、韓国人のおばさんを中心とする国連職員の通用口から出てきたグループは熱り立って、スピーチを遮るように罵声を浴びせたり泣き叫んだり大パニックになっていました。ビルディングの責任者という女性(という事は委員会側のイベント責任者だと思われる)は「関係ない話をするな！このイベントはいますぐ中止！」と噛みつく勢いで立ち上

がり、強制終了させるべく聴衆にも退室を促しました。ある人は出ていき、ある人は戻ってき、一時、会場は騒然となり滅茶苦茶になりました。しかし杉田先生は、臆することなく淡々とそして堂々とお話を続けられました。

外国が相手だと迎合するかだんまりを決め込むかしかできない政治家が多い中、杉田先生は当時一市民だったにもかかわらず、謝罪と反省と補償を強要し続ける隣国の歴史へも公正な検証をという願いを、こんな風に世界に向かって正面切って訴えてくださっていました。

杉田水脈先生は、本当に正義感の溢れる肝の据わった政治家です。

また杉田先生は、わたしが知る限りですが、同じ 2016 年にはあと 2 度、私費で訪米されています。

ひとつは、邦人子女に対する学校でのいじめや偏向教育についての調査をされたいとのことで 6 月にお越しになり、保護者や識者と面会されました。東海岸の歴史戦の最前線であるニュージャージーの 2015～2016 年あたりの時期は、現地校の授業や課外活動で反日偏向教育に熱が入り、邦人保護者はとってもナーバスになっていた、そういった時期でした。なんとか日本政府に保護者の声を届けたい、そう願って止まなかったその頃に、現地の保護者の声を聴こうとわざわざ東海岸にまで足をお運びくださった政治家は、わたしが知る限り、片山さつき先生と、杉田水脈先生だけです。西海岸へは青山繁晴先生です。

困っている日本人がいると聞きつければ世界の果てまで駆けつけてくれるような政治家がいま一体何人いるのでしょうか。本当に嬉しく、心強く、有り難いと思いました。

お越しになった際に杉田先生は、気軽に講演の依頼を引き受けてくださいました。実際、その約束を果たすために 8 月に本当に戻ってきてくださいました。講演代も足代もいらないと、無償です。

しかも、日本を出国する日は台風で予定の飛行機がキャンセルで飛ばなかったもので、急ぎよ新幹線で九州(だったかな?)の空港へ向かい、それで飛行機に乗って、講演時間ギリギリにニューヨークの講演会会場に駆けつけてくださいました。文字通り滑り込みです。アメリカ滞在時間はたったの 30 時間。講演会後もくたびれた顔ひとつ見せず、我々現地の人間と交流してくださり、こちらのほうが疲れてしまって先生を無理やりタクシーに乗せたのを覚えています。

杉田先生、どんだけ義理堅く、タフで凄いですかって、必ず政治に戻っていただかなければって、感謝をしながらそう思いました。

こんな心のある政治家はなかなかいない。

誰が何と言おうとわたしは杉田水脈先生を応援しています。

その当時に先生と交流したニューヨーク&ニュージャージーの人は、みんなそう思っていると思います。

拉致問題

啓発舞台劇公演のちらしを同封させていただきます。中高生の参加が多く見込まれ、一般席の枠は少ないようです。ご希望の方は申込みをお急ぎ下さい。

上映会

映画「氷雪の門」

樺太1945年夏

憎しみの銃火を浴びた北国の街！

最後の回線は乙女たちの慟哭を残して切れた・・・

9月23日（祝・日）13時30分～15:30

砥部町文化会館 3階視聴覚室

入場料 1000円 学生 無料

文部省選定・優秀映画鑑賞会推薦・青少年映画審議会推薦・全日本教育父母会議推薦・日本PTA全国協議会特別推薦

主なキャスト：二木てるみ・鳥居恵子・岡田可愛・藤田弓子・千秋実・若林豪・丹波哲郎・黒沢年男・田村高廣・南田洋子・浜田光夫・栗田ひろみ・久米明

大津寄章三先生がかつて産経新聞に連載されていた『教室の窓から』を転載しました。

最近、30年ぶりに見た映画があった。「氷雪の門」という文部省選定の名画である。終戦時の樺太（サハリン）に住む日本人の運命を描いたものであり、学生時代に映画館で大泣きしてしまい、感動と外で泣き顔を見られる恥ずかしさにしばし席を立てなかった覚えがある。

これはええ映画じゃ、と仲間に宣伝しまくり翌週、友人を引き連れて映画館に赴いたところ、なんと上映中止になっていたのには驚いた。映画の内容がけしからん、とソ連から圧力がかかり、国内での上映わずか1週間で「お蔵入り」になってしまっていたのである。

憤慨したわれわれは早速、あちこちに問い合わせ、総理府からフィルムを借りて、大学で自主上映会を催した。何百人もの学生が顔じゅう涙にして帰ったことは言うまでもない。以来、この映画は「幻の名作」と言われ、世の人にほとんど知られなかったのだが最近、ビデオ化されたことを知り早速、注文した。

現在、北海道最北端・稚内には、遠く樺太の地をのぞむ海沿いの公園に「氷雪の門」という大きな女人像が建てられている。終戦直後、ソ連軍に追われこの地へ逃げてきた多くの島民の望郷の思いを表したものである。

当時、樺太の南端に真岡という町があった。そこには電話を取り次ぐ通信所をかねた郵便局があり、数十人の若い女性たちが交代で電話の交換業務にあたっていた。彼女たちはそこで8月15日の終戦を迎える。

しかし、ソ連軍は中立条約を一方的に破棄、戦車と艦砲をもって樺太全土を占領すべく津波のような進撃を続けた。

8月5日(日)の「日系442部隊」上映会のご報告

26名の方がご参加下さいました。

◆「日系442部隊の話は知ってはいましたが、今回の映画を観て、やはり色々な意味で最強の米軍隊とは呼ばれたのが分かりました。心に残ることは、彼らの心、魂に流れる「武士道」です。今

日の日本人に欠けているものをみました。

◆日系人部隊が、ダッハウ収容所を解放したことは今回はじめて知りました。勉強になりました。今思うと、小学6年のときの学校の担任は、戦争の悲惨さを語りながらも、日本軍を悪く言わなかったのが、良かったと思います。

◆日系2世の功績は承知していたつもりですが、こんなに大きな辛苦があったとは…。その苦勞に想いをはせながら視聴していました。誇りを大切に生きる人々に胸を打たれました。

◆今の日本人に無いものを何か考えさせられた。家族、絆、恥…。昔の人に改めて敬意を表します。教育の重要性が思われます。442部隊とホロコーストの関係（事務局註：部隊がユダヤ人を救出した）を初めて知りました。

◆人種差別とも戦いながら、国の為、未来の明るさの為に命をかけて戦った442部隊はすばらしい！！

◆私達は442部隊を誇りに思います。人類の続く限り、語り尽くさなければならないと思います。

◆語りつぐことの大切さ！・次世代へどう語り、何を告知し、どんな役割を残していったかを伝えるか・本当の「根っこ」を語らないと…。・名誉的な視線のみで語ることはやめたい。・経験を伝えることで聞く人（若人）は理解できるだろうか。体験していないと身近に感じず他人事を感じる…。・ここが問題。・世代間の違いをどうするか。・出席者に老人が多いのが非常に残念です。

◆戦争はおそろしい戦いであり平和を愛する世界であってほしい。全世界で核開発をなくし、世界が平和でなくてはならない。戦争は国との戦いであつたが非常に悲しい出来事であり、絶対してはならないことだ。戦争に参加した人は命をすてて国のために戦った偉人である。今では誇りに思う。

◆我が国でも、災害復興支援や海外派遣に従事される自衛隊員の方々を大切にしなければならないと改めて感じました。

◆感動。感謝。日本人、アメリカ人 etc 国籍を超え、人間は理解し合いができる。日系人の苦勞の中に、アメリカ人も又反省して新しくなった。・日本の現在の日本人が、誇り、名誉、勇気 etc を、日本人伝統の心情、精神を呼びもどしていかなければならない。

☆☆☆ 事務局 から ☆☆☆

★9月9日（日）加戸守行氏講演会、9月22日（土）元・空将、織田邦男氏講演会のちらしをお入れ致しました。奮ってご参加下さいませ。

★会費の切れる会員の方には払込用紙を同封しております。引き続きご支援下さいますようお願い申し上げます。年会費は2000円でございます。封筒のアドレスシールの住所のあとの数字は今まで会費を納入していただいた〈年と月〉を表しています。長期会員の方は〈年〉のみもございません。

健全な男女共同参画社会をめざす会

会長 青井美智子

〒791-0221 東温市上村甲218番地

電話 090-8971-7721 Fax 089-964-3903

<http://www.mezasukai.com/>

メール michikoaoi25@yahoo.co.jp